

ブラジルの金融市場動向 Weekly Report

2018年1月15日

【2018年1月6日～2018年1月12日までの推移】

【1】先週の回顧

先週のブラジル・レアルは対米ドルで上昇する一方、対円では下落しました。また、2年国債金利は上昇しました。

1月11日(現地、以下同様)に格付会社スタンダード・アンド・プアーズは、ブラジルの自国通貨建てと外貨建ての長期債務格付けを1段階引き下げて、ともに「BB-」としました。しかしながら、同社による格下げの可能性はかねてから指摘されていたこともあり、翌12日のブラジル金融市場ではブラジル・レアルが対ドルで上昇し長期金利も低下するなど、格下げに対する市場参加者の反応は限定的でした。

1月10日に発表された2017年12月のIPCAインフレ率は前年比2.95%の上昇となりました。市場予想を上回る数字となったことを受けて、2年国債利回りには上昇圧力がかかりました。一方、2017年のインフレ率がブラジル中央銀行の目標レンジ(現行で3～6%)を下回ったことから、ゴールドファイン総裁は財務相宛てに書簡を送付し、低インフレの原因について、食品価格の大幅下落が主な要因との見解を示しました。加えて、今後インフレ率は目標レンジの中心値(4.5%)に接近するとの見通しを改めて示し、現行の金融政策を見直す必要はないと指摘しました。

【2】今週の見通し

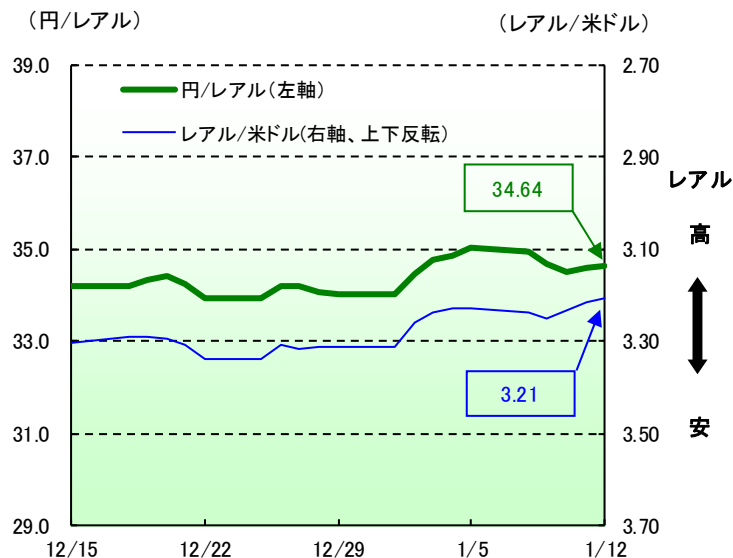
今週のブラジル金融市場は、年金改革法案を巡る政治情勢と、1月24日に予定されているルラ元大統領の控訴審を材料として神経質な展開が続く見込みです。

年金改革を巡る政治情勢につきましては、財政規律に関する考え方の違いや、連立与党内における大統領選候補の指名争いなどから、メイレス財務相とマイア下院議長の対立が激しくなっています。テメル大統領は仲裁に乗り出していますが、両者の対立が一段と激化すると年金改革法案成立の可能性が低下することが懸念されます。

経済指標に関しましては、経済活動指数の発表が予定されています。市場では前年比2%台半ばの成長率が予想されており、ブラジル経済の着実な回復が確認できるかが注目されます。

【ブラジル・レアル 為替推移】

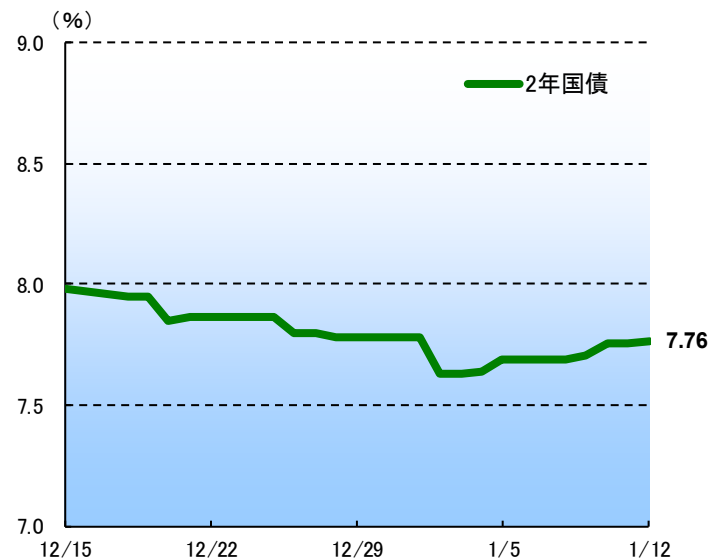
(2017年12月15日～2018年1月12日)



※四捨五入の関係で数値とグラフの目盛りが一致しない場合があります。

【ブラジル 金利推移】

(2017年12月15日～2018年1月12日)



(出所:ブルームバーグより大和投資信託作成)

当資料のお取り扱いにおけるご注意

- 当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするために大和投資信託により作成されたものであり、勧誘を目的としたものではありません。
- 当資料は、各種の信頼できると考えられる情報源から作成していますが、その正確性・完全性が保証されているものではありません。
- 当資料の中で記載されている内容、数値、図表、意見等は当資料作成時点のものであり、将来の成果を示唆・保証するものではなく、また今後予告なく変更されることがあります。
- 当資料中における運用実績等は、過去の実績および結果を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。
- 当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。

販売会社等についてのお問い合わせ⇒大和投資信託 フリーダイヤル 0120-106212(営業日の9:00～17:00) HP <http://www.daiwa-am.co.jp/>